

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：82702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008年度 ～ 2011年度

課題番号：20520606

研究課題名（和文） 川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行

研究課題名（英文） A Study of the *Kawashima Papers* and Yokohama Specie Bank in Meiji Era

研究代表者

寺嵯弘康（TERASAKI HIROYASU）

神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸部長

研究者番号：80250231

研究成果の概要（和文）：

横浜正金銀行リヨン出張所初代主任の川島忠之助資料（書簡、書類、写真など）を調査し、目録の作成と撮影作業、書簡619通の翻刻作業をおこない、川島忠之助資料の全容を明らかにすると同時に、横浜正金銀行の欧米支店における活動実態について新資料を提示した。

研究成果の概要（英文）：

This research had aimed at clarifying activity of the Yokohama Specie Bank of Meiji Era based on the letter which the Chunosuke Kawashima sent to head office and other branch office. He was a manager of the Lyon branch office in 1882-1899 years. and performing creation of a list of photograph and the reprint work of those letters, the activity actual condition in the European and American branch of the Yokohama Specie Bank was clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史・

キーワード：近現代史

1. 研究開始当初の背景

(1) 横浜正金銀行（1870年～1947年）については、銀行史、経営史、金融史などの側面から多くの研究が蓄積されてきたが、その多くは横浜正金銀行の経営資料が未公開という制限により、財務諸表や統計資料、同行が編纂した『横浜正金銀行史』などを基礎資料

とせざるを得なかった。同行を継承した東京銀行（現、三菱東京UFJ銀行）が横浜正金銀行の経営資料を所蔵していることは研究者間では周知のことであったが、学術研究や自治体史編纂などの場合でさえも基本的に非公開とされていた。

しかし、2000年に東京三菱銀行（当時）

から東京大学経済学部で横浜正金銀行の経営資料がすべて寄贈され、その後同大学武田晴人教授らの尽力により（株）丸善からマイクロフィルム「横浜正金銀行史資料」が販売されたことで、横浜正金銀行の研究はより一層進展する環境が整えられ、それを活用した研究が始められている。

(2)その一方で見落とされがちなことは、銀行本体に継承された経営資料以外にも横浜正金銀行研究にとって欠くべからざる資料が存在している。すなわち横浜正金銀行の本支店に勤務した行員たちの資料である。経営資料は銀行経営の意志決定を如実に示す重要な記録であるが、どのような経緯で意志決定に至ったのかを示すものではないため、行員自身が記録した資料や業務書簡などを分析することにより、銀行の意志決定課程について多面的な検証が可能になるといえよう。前述の東京大学に寄贈された資料の中にも一部行員の資料が含まれているようであるが、それらは現在のところマイクロ化される予定はないようであるので、他に行員遺族などを尋ねて行員資料の調査をおこない、その収集に努めることが必要になるであろう。

幸いなことに、2003年に神奈川県立歴史博物館で開催した「横浜正金銀行展」に際して、行員遺族から資料の提供や寄贈の申し出を少なからず受けたが、その中に川島忠之助の文書と写真類、第14代頭取柏木茂秀（明治14年生～昭和27年没）の文書と写真類、太平洋戦争期の取締役今川義利の文書と写真類などが含まれていた。これらの行員資料には私的な記録や写真も含まれるが、横浜正金銀行の経営に関する記録類も少なくなく、横浜正金銀行研究にとって重要な資料である。

本研究では、1882（明治15）年にリオンに赴任し出張所（後支店昇格）を開設し、以来1895（明治28）年の帰国まで初代支店長として活躍した川島忠之助の資料を対象に研究を開始することとした。

2. 研究の目的

(1)本研究は、川島忠之助が残した明治20～30年代の書簡類（619通）を基礎に、リオン支店を中心としたヨーロッパ及びインドにおける外国為替、貿易金融に関する横浜正金銀行の役割を実証的に解明し、横浜正金銀行研究の進展に寄与することを目的とする。

(2)また、川島忠之助資料は個人が所蔵していたため、これまで公開されたことがなく、本研究で整理、分析、デジタルデータ化することにより、研究終了後には一般に公開・活用することをもう一つの目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、①調査整理作業（資料の調査及び整理、目録用データ入力）、②撮影作業（①の作業を終了したものからデジタルカメラなどで撮影すると共に、画像のプリントアウトをおこなう）、③翻刻作業（②の作業を終了したものの中から、翻刻を要する資料は全文もしくは一部をパソコン等で翻刻入力する）、④研究作業（四半期に1回研究分担者や研究協力者による研究会議を開催し、研究経過の報告、新知見の口頭報告などをおこない、論文を執筆・発表をめざす）、⑤編集作業（研究成果報告書の作成のための編集をおこなう）にわけ、①と②は2008年に実施し、③を2008年から2010年までの3年に振り分け実施した。④の研究会議は適宜実施した。⑤の研究成果報告書の編集作業は2012年度におこなった。

4. 研究成果

(1)4カ年の研究期間において実施できた作業は以下のとおりである。

- ① 資料の目録
- ② 簡の翻刻
- ③ 年譜の作成
- ④ 写真類の分類と人物の特定
- ⑤ 研究成果報告書の発行

(2)川島忠之助資料の概要と目録

川島忠之助関係資料は、書簡綴3冊、書類6点、写真320点、物品1点である。書簡はすべて複写式書簡（コピーレター）で、うち2冊はリオン出張所時代（1889年～1895年）で、1冊はボンベイ出張所時代（1898年～1899年）である。書類は、横浜正金銀行の辞令、手形関係の書類で、物品は横浜正金銀行第1次営業満期を記念した銀杯である。これら資料の目録は研究報告書に掲載している。

(3)書簡の翻刻

書簡は薄い洋紙を2枚重ねてペン書きされており、一部水損などで文字がにじんだり、判読できない箇所もあったが、基本的には619通を翻刻した。その分量はA4判（1000字）で470枚となった。書簡は横浜正金銀行の本支店間の公用通信ではなく、私的なものであるが、頭取や本店支配人、各支店支配人にあてたものも多く、内容的にも銀行業務に関するものが含まれていた。また、日本にいる親族や友人などに宛てた書簡も含まれているが、これらも翻刻した。このうち横浜正金銀行関係者に宛てた書簡429通を研究成果報告書の資料編に掲載している。

(4) 川島忠之助の年譜

川島忠之助の伝記については、柳田泉「川島忠之助伝」、川島順平「フランス演劇とその周辺」、川島瑞枝「わが祖父川島忠之助の生涯」があるが、きちんとした年譜がなかったため、今回川島書簡や関係資料を調査収集して年譜を作成することができた。これまで不明であった川島が海軍から大蔵省へ転出する経緯、川島の最初の婚姻、リヨン支店からの帰国の経緯などを新たに加えた年譜を作成した。これは研究報告書に掲載している。

(5) 写真類の分類整理

写真は320点あり、最も古いものは1871(明治4)年で、最も新しい写真は昭和10年代の晩年の川島忠之助一家の写真である。内容では、家族及び本人、横浜正金銀行員、海軍時代の友人、フランスリヨン時代に交流した外国人や日本人の写真である。写真に裏書がないものが多いため判別できないものも多いが、横浜正金銀行員として、原六郎、園田幸吉、相馬永胤、高橋是清、村田一郎ら頭取・取締役クラスだけでなく明治期に入行した高木貞作、鍋倉直、伊藤詮一郎、大坪文次郎、中村錠太郎、戸次兵吉、山川勇木、西巻豊佐久、さらにリヨン出張所の市川亮功、武澤熙載、伊沢信三郎の肖像写真は今回初めて確認できた貴重なものである。今後、正金銀行員の集合写真の分析などに活用が可能である。また外交官やフランス派遣の留学生などの写真も含まれており、貴重な資料であることは間違いない。

(6) 研究成果報告書の刊行

以上の研究成果を、研究成果報告書として発行した。A4判、206ページで400部作成し、関係機関に納入・配布する。研究成果報告書の構成は、第1部研究活動の概要、第2部資料編の2部からなり、年譜、目録、書簡翻刻、主要な写真を収録した。

(7) 新たな知見

①複写式書簡は、正金銀行の本支店間、支店間の公用通信とは異なり、出張所主任である川島の個人的な書簡であるが、公用書簡には記載できない銀行業務に関する意見や情報の交換がなされていたことが判明した。現在、明治20年代の公用書簡が残されているのは、本店からニューヨーク支店との間のものでアメリカ国立公文書館に所蔵されているだけであるので、今回の川島の書簡は公用書簡ではないものの、当時の本店と欧州支店との情報連絡の様子が判明する貴重な資料であることが判明した。

②書簡にはしばしばフランスなど欧州の政治経済状況や貿易商などの情報が記載されている。これは川島など在外行員の役割と

して、海外の政治状況や市況などを詳細に本店に報告する義務があったことをうかがわせるものである。外国の政治状況の変化が貿易為替に大きな影響を与えることから、正金銀行としてどのようにリスク回避するかの判断材料として在外行員の報告が不可欠であったからであろう。後に正金銀行調査部による外交経済などの情勢調査の嚆矢として位置づけられる。

③写真には、正金銀行員をはじめ当時欧米に赴任していた外交官、武官、貿易商などのものがあり、とくにこれまで不明であった正金銀行員の肖像を確認できたことは大きな意義を有する。

なお、これら写真や書類は、研究終了後に神奈川県立歴史博物館の常設展示室にて展示公開を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

寺寄弘康、横浜正金銀行創立当初の職制と行員について、神奈川県立博物館研究報告(人文科学)、査読無、37号、2011、1-24

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺寄 弘康 (TERASAKI HIROYASU)

神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸部長
研究者番号：80250231

(2)研究分担者

丹治 雄一 (TANJI YUICHI)

神奈川県立歴史博物館・学芸部・主任学芸
員

研究者番号：50342944

(3)連携研究者

()

研究者番号：